

二十歳の誓い

一生に一度しか出来ない挑戦をするために「二十歳の誓い」に応募し、今ここに立っています。これまでの私自身を振り返ると、何事も上手くこなすタイプではなく、壁にぶつかり続けて、何かを成し遂げるのに、時間がかかってきました。

私は小学生の頃からトランペットを吹いており、中学・高校生も吹奏楽部に入ってトランペットを担当していました。しかし、思うように高音が吹けず。2年間コンクールのレギュラーに成れませんでした。我武者羅に練習しても全然上達せず、後輩には抜かされ、ノイローゼとまではいきませんが精神的に滅入ってしまい、次第に練習することが苦しくなっていました。

そんなある日、顧問の先生に「このまま続けてもレギュラーは難しいから別の楽器に移らへんか？」と言われ、一番吹きやすいバスクラリネットに配属されたのです。いくら吹きやすいと言っても、トランペットとクラリネットでは、指使いが全く違い、戸惑うし、慣れるまでに時間がかかりました。それだけではなく後輩から指導を受けるという、小学生の時から楽器をやってきた私としては何とも情けない思いになりました。

しかし知らない楽器だからこそ基礎から丁寧に練習していくうちに、日々自分が上達していくのを感じられるようになったのです。あれだけトランペットで苦しんでいたのに、練習することが楽しくなりました。その後も努力を重ね、三年生でついにレギュラーの座を掴むことが出来ました。そしてコンクールに出場し、やっとこれまでの努力が報われたという達成感を味わいました。一つ一つ丁寧に向き合えば、一步一步確実に成長することが分かったのです。

これから先の未来は、毎日が初体験の連続で前に進むことも一苦労することになると思います。将来は公共交通機関の活性化を通して、街の発展に関わる仕事をしたいと思っていますが、正直今大学の成績は低迷しています。でも一歩ずつ前に進んでいけば夢が叶うと信じて頑張っていきます。

一つ一つの問題に真正面から丁寧に取り組んでいき、自分自身の力で未来を切り拓ける大人になりたいです。このことを二十歳の誓いとさせていただきます。

令和4年1月10日 新成人代表 市田 暉昂